

平成31年度  
新潟県農業再生協議会  
(平成31年4月17日開催)

議事録

## 平成31年度新潟県農業再生協議会 議事録

日時：平成31年 4月17日

午前10時～11時

場所：県庁201会議室

### 開会

- 定刻となったので総会を開会する。
- はじめに、本協議会の石山会長から、開会のごあいさつを申し上げる。

### 開会あいさつ（石山会長）

- 本日は業務ご多忙のなか、また、緊急な開催にも関わらず、委員の皆様からご出席をいただき感謝申し上げます。
- 令和元年産に向けては、各地域協議会において、それぞれ需要に応じた生産に取り組んでいるところ。
- しかしながら、国が公表した2月末時点の生産見込みによれば、本県の主食用米は、29年産米を4,400ha上回る作付が行われた30年産並みの作付が見込まれている。これが平年作であれば約57万tとなり、在庫の積み上がりやこれに伴う価格下落が懸念される状況にある。
- このため、加工用米等の需要のある非主食用米や、国が制度見直しを行った備蓄米の取組拡大が必要である。
- 本日は、このような状況を踏まえ、令和元年産の適正生産に向けた今後の対応について協議頂くので、皆様から忌憚のないご意見をいただくようお願いし、開会のあいさつとする。

### 事務局

- 本協議会は原則公開としており、議事録についても、「新潟米」情報センターのホームページに公開することとなっているので、承知願う。
- 本日の出席状況を別紙の出席者名簿で確認する。  
～出席者名簿により確認～
- 以降の進行については、石山会長にお願いしたいが、いかがか。

### 会員：異議なし

- それでは、石山会長にお願いする。

### 石山会長

- 次第に沿い、議事の進行を務めさせていただく。
- なお、本日の議事録については、事務局で作成することとし、議事録署名人の選任について、慣例により一任いただきたいが、いかがか。

会員：異議なし

- 異議なしと認め、議事録署名人を新潟県農業共済組合連合会の五十嵐会長理事、新潟県土地改良事業団体連合会の渡辺専務理事のお二方にお願ひする。
- それでは、全国の情勢について北陸農政局新潟県拠点から説明をお願ひする。

オブザーバー（北陸農政局新潟県拠点 齊藤地方参事官）  
～全国の情勢について（別紙資料1-1、別紙資料1-2）～

石山会長

- ただいまの説明について、質問を受けるが、いかがか。
- 無いようなので、続いて新潟米の生産動向について、県から説明願う。

県農産園芸課 牛腸課長

- 関連するところであるので、資料2と資料3を合わせて説明する。
- ～本県における令和元年産の生産見込（2月末時点）について（別紙資料2）～
- ～令和元年産の需給安定化に向けた取組について（別紙資料3（3ページまで））～

石山会長

- ただいまの説明について、質問を受けるが、いかがか。
- 無いようなので、続いて令和元年産米の生産に向けた今後の対応について、まず、県から説明願う。

県農産園芸課 牛腸課長

- ～令和元年産の需給安定化に向けた取組について（別紙資料3（4ページから））～

石山会長

- 続いて、全農新潟県本部から説明願う。

全農新潟県本部 浅井副本部長

- 資料が無いため、口頭で説明する。
- 全農は、主要卸からの希望数量を把握した上で各JAに出荷依頼をしている。
- 水田活用米穀については、JAグループでの把握分では、2月末現在で昨年に比べて1割程度減少しており、加工用米や米粉用米の県産需要が満たせない状況。
- 備蓄米については、県別優先枠を活かしたいことから第4回入札までに20,400トンを落札した。
- また、県別優先枠を埋めるための対策として、水田活用米穀の手取りの平準化の取組をしているが、その一環として備蓄米に対して支払う経営面積支払金（加算分）を、当初の10,000円から15,000円に引き上げた。

- 今後の進め方だが、引き続き水田活用米穀を積み上げていくことに変わりはない。また、県産需要を満たしていない加工用米や米粉用米の推進を図っていく。

石山会長

- 続いて、新潟県主食集荷商業協同組合から説明願う。

新潟県主食集荷商業協同組合 関口理事長

- 当組合でも、需要に応じた米づくりと農家の所得向上を念頭に置き、主食用米と非主食用米のバランスのとれた作付の取組を進めているところ。
- 具体的な内容については、業務部長の加藤より説明させる。

新潟県主食集荷商業協同組合 加藤業務部長

- 当組合の平成30年以降の取組方針の概要は、新潟米基本戦略を基本に、売れる米づくりを念頭に、集荷業者に対して、主食用米については家庭用と業務用に向けたバランスのとれた銘柄の作付を、また、非主食用米についても積極的に取り組むよう、生産者への働きかけを要請したところ。
- そのような中、令和元年産米については、昨年12月に傘下の集荷業者に対して非主食用米の取組意向調査を実施したが、その際、組合独自の生産者手取りイメージを作成し、周知したところ。
- その結果、備蓄米の落札は累計で576トンとなった。
- 今後、集荷業者に対し、備蓄米の運用改善を周知してさらなる取組拡大を図るとともに、加工用米や新規需要米についても取組を依頼する。

石山会長

- ただいまの説明について、一括で質問を受けるが、いかがか。

新潟県土地改良事業団体連合会 渡辺専務理事

- 米粉用米の面積が減っているということに対する認識や今後の方向性などはいかがか。

県農産園芸課 牛腸課長

- 地元の需要があるのに応え切れておらず、今回の産地交付金の県枠メニューの活用につながった。国の指定から外れている品種についても、県が認める多収性品種を作れば12,000円を措置する。併せて、安定供給・安定需要の観点から複数年契約について5,000円上乗せを措置した。

県農林水産部 山田部長

- 補足説明させていただく。産地交付金の県枠を活用すると、所得として主食用米と遜色ないような試算を早い時期に伝えてはいるのだが、なかなか受け入れてもらえない。現地を回ると、コシヒカリが高く売れているので、やはりそちらを作りたいという意見が多い。

- 令和元年産の米粉用米や加工用米について考えられる手立てはしたので、やるべきことをしっかりやっていかなければならない。県内産米粉は、県内だけでなく全国の米粉需要者から、新潟県が発祥の地としてしっかり作るよう厳しく言われている。

北陸農政局新潟県拠点 齊藤地方参事官

- 資料より、北海道・東北地域は前年横向きではあるが、実は増えている可能性があることをご理解いただきたい。深刻なのは昨年不作だった、東北日本海側・北陸である。それが平年作になった場合、どうなるかは容易に想像がつく。まさに令和元年は新潟も含めて全国的に正念場になる年である。農林水産省としては主要産地が需要に応じた生産をすることが全国の需給の安定につながると考えている。

新潟県担い手育成総合支援協議会 松井事務局長

- 実際作業が進んでいる状況なので、生産者へ直接訴えかけるような具体的な取組があればお聞かせ願いたい。

県農産園芸課 牛腸課長

- 資料4の説明をさせていただく。まもなく田植えの時期。本会議で説明したような作付面積の認識や危機感、対策等を一刻も早く農家の方にお伝えする。本日、中央会、全農、主食集荷、県の4者共催の会議を準備している。
- マンスリーレポートを配布した。毎月定期的に発行しており、今月の特集のひとつとして令和元年産米の需給見通しを掲載し、備蓄米の運用改善についてPRするページも準備した。直接農家の方に情報を周知するレポートとなっている。あわせて県協議会が地域に出かけていくキャラバンも継続して行う。

新潟県農業共済組合連合会 五十嵐会長理事

- 昨年度から配分がなくなった。主食用米の作付を増やした農家がいる、作付を増やしたものの現在の米価は安定していると話している。
- 作況が95~96であるから安定しているにも関わらず、現在米価が安定していることから少し余分に作っている農家が結構いる。
- そうした意識を変えていかないと、作況が100以上になったとき新潟県はかなり厳しくなると心配している。
- そのような農家の方にどのように説明していくのか。

県農林水産部 山田部長

- わずか3年前の平成28年、豊作だったが大変苦労した。このまま行ったら3年前と同じ状況になる。全農や生産者の皆さんにもなるほどと思っただけのような情報提供をしていきたい。

新潟県土地改良事業団体連合会 渡辺専務理事

- 農業を経営として考えている方に対しては、このアプローチは大賛成。国や県が提供する資料をよく読み、情報も伝わり、その方向はいいと考える。
- 一方、個別経営や家族経営などの小規模農家に対しては、マンスリーレポートで情報提供しているといっても目にしている人はほとんどいないと思う。関心のない方が大多数である。細かい情報を浸透させていく手法を少し考える必要がある。末端の方で価格が安定しているから大丈夫だと考えている人がほとんどである。農業者に迅速に情報を提供するような仕組みを検討いただきたい。

新潟県担い手育成総合支援協議会 松井事務局長

- 農家向けに少し刺激的な資料の作成はできないのか。主食用米から非主食用米への転換を端的に訴えかけるような資料での農家説明はできないのか。

県農産園芸課 牛腸課長

- 貴重なご意見に感謝する。より刺激のある資料に関しては、情報を整理し関係各所と対応していきたい。

北陸農政局新潟県拠点 齊藤地方参事官

- 非常に重要なお指摘をいただいた。
- 行政の役割としては、それぞれの地域において需要に応じた米生産に資するようきめ細かな情報をタイムリーに出していくことである。国としても現場での需要に応じた米生産に資するよう情報を適切に出していきたい。
- また、生産段階でわかりやすい資料についての意見があればいただきたい。
- 県再生協議会が行うキャラバンには、国も引き続き参加し、正確で厳しい資料を提供させていただく。

新潟県農業協同組合中央会 高橋専務理事

- JAグループとしても平成30年産の需給と価格は作柄に助けられたと言い続けてきたところ。
- また、日本農業新聞のタブロイド判を作り、情報提供してきた。

新潟県農業共済組合連合会 五十嵐会長理事

- 需要に応じた米づくりには地域再生協議会が役割を果たしていかないといけない。地域再生協議会は、生産者へのきめ細やかな情報提供が必要。

石山会長

- 他に質問はないか。
- 協議事項は以上となるが、その他に何かあるか。
- ないようであるので、以上で用意した内容は全て終了となる。
- 議事の進行にご協力いただき感謝する。以上で本日の議事は終了とする。

○ 後は事務局にお願いします。

事務局

- 円滑な進行に感謝申し上げます。
  - 閉会に当たり、県農林水産部の山田部長から閉会のあいさつをお願いします。
- 県農林水産部 山田部長
- 本日は、本年産米の生産に向けた今後の対応についてご協議いただき、感謝申し上げます。
  - 令和元年産米の作付が前年並の傾向であり、このまま平年並みの作柄になれば、在庫の積み増しや価格下落が懸念されるという厳しい状況について、関係機関で認識を共有できたと考えている。
  - 需給の安定に向けて各機関、団体が一体となって取組を推進していく必要があると考えており、本日お集まりの皆様におかれても、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
  - また、午後に開催される新潟米需給安定化対策会議において、本会議で協議されたことについて、情報の周知・徹底を図ってまいりたいと考えており、併せてご協力をお願いします、閉会のあいさつとさせていただきます。

事務局

- 以上をもって、新潟県農業再生協議会を閉じさせていただきます。

議事録署名人

石川 威 彦



議事録署名人

渡辺 仁

